



山西小学校便り



階段の人権ポスター。多様性について学ぶことの大切さを伝えているようです。

令和3年5月10日（月）no.7 文責：上田

歓迎行事を行いました

例年4月に1年生を迎えての歓迎遠足を行っていますが、今年は5月7日（金）に各学年の歓迎ビデオを視聴しての歓迎行事となりました。子ども達には物足りなさはあったかもしれませんが、いつもの教室でも顔をほころばせながら動画を見入る姿がありました。1年生たちは、「おめでとうございます」と語りかける上級生からのメッセージがうれしそうでした。入学式を共に祝えなかった分、上級生も頑張っ



ビデオに思いを込めたことだろうと思います。県内では、この数週で100名を超える新規感染者の日もあり、複数の集団感染（クラスター）の発生を危惧する状況下です。一つ一つの行事を感染リストを下げる形態で実施せざるをえず、行事のねらいが達成されているのか事後の反省も大切だと考えています。

～ 学校教育目標① ～ 目指す学校像は

この山西小学校便りにある《なかよく・かしこく・たくましく》は、校訓として数年にわたり目指す子どもの姿として掲げられてきたものです。学校教育目標【生きる力を身に付けた児童の育成】にある「生きる力」は、簡潔に言えば、



人を大切にし、自分の**考えを持ち**、自分を**表現**し、失敗を恐れず**チャレンジ**する力だと捉え、昨年からは

「なかよく・・・心優しく、**思いやり**のある子」「かしこく・・・深く**考え、表現**する子」「たくましく・・・体を鍛え、**粘り強い**子」として「生活の決まり」でも子どもたちに行動規範として定着を図っています。

学校は、子どもにとって「自らの成長を実感できた」、保護者にとっては「子どもの望ましい変容を見ることができた」、地域にとっては「学校との結びつきを実感できた」といった子どもを中心にした多くの魅力ある場所でなくてはならないと思います。そのために『温もり』『信頼』『笑顔』のある指導が求められ、子どもの自己有用感を高める教育活動の展開を期さなくてはなりません。

（1学期の間、不定期にはなりますが、学校教育目標について、その設定の背景等についてお伝えします）